様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成　23 年　5 月　22 日現在

機関番号：14501
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2012
課題番号：23653247
研究課題名（和文）　コーパスの構築を通した労働・職業関連生涯学習の問題構造の解明
研究課題名（英文）　A study to clarify the issue of lifelong learning on profession and labor by making the corpus.
研究代表者 末本　誠（SUEMOTO MAKOTO）
神戸大学・人間発達環境学研究科　教授
研究者番号：80162840

研究成果の概要（和文）：　日本社会教育学会のプロジェクト研究と連動した本研究で、①「労働」概念の再構成の必要　②社会的排除と包摂問題　③個別化を超える学習論の創出という問題構造が明らかになり、現代における職業・労働問題の解決には生涯学習からのアプローチが不可欠であることを確認した。これらの課題をさらに深め広げるために、同学会は「労働の場のエンパワメント」を、2013 年度の年報のテーマとすることを決定した。

研究成果の概要（英文）：　This research, linked with the collective study of the Japan Society for a Study of Adult and Community Education; JSSCE, has finally clarified the issues of lifelong learning on profession and labor; the need to reconstruct the new concept of “Labor”, the problem of “social exclusion and inclusion”, and the need to develop the new idea of adult learning which transcend the individualism. To deepen and widen these issues, the JSSCE has determined to edit and publish a book on this matter.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育学
キーワード：生涯学習・社会教育・労働の場・職業・労働者教育・エンパワメント・社会的排除

１．研究開始当初の背景

生涯学習および成人教育において、労働・職業領域の学習が占める位置は本来大きい。しかしながら日本では、教育と労働の分離が一般的通念となっており、生涯学習はカルチャーセンターに代表される一般教養の獲得を意味するものと理解することが通例になっている。しかし、生涯学習の本体は成人教育というべきであり、成人の生活にとって労働や職業がもつ意味が大き

いことは、言うまでもない。労働や職業に関わる生涯学習は、他の諸国では成人教育研究のもっとも重要な柱であり、このことが日本で研究の対象とされないことは、国際的な常識からは異例なことといわなければならない状態である。その中で本研究は、このタブーに抗して、職業領域における生涯学習の今日的な意味を、社会教育研究として組織する糸口をつかむことを目的にしている。

日本では、日経連が『新時代の「日本的経営」』(1995)を提言して以降、従来から従業員教育において企業の果たしてきた役割が後退し、労働者教育への新たな公的関与の必要が論議されている。またこの度の教育基本法の改正によって、教育基本法の第7 条から労働・職業に関する社会教育の役割に触れた規定が無くなり、教育法制度の枠内でこの問題を受止める条件が失われるにいたった。こうした労働や職業に関わる生涯学習をめぐる環境の変化は、改めてこの領域の研究がもつ必要性と重要性を示唆している。

現実においても、若者を中心とした就労の困難や非正規労働の拡大、ワーキングプアーやフリーターなど深刻な問題が山積している。企業の人材養成機能が後退を見せる中で、国による人材養成への取り組みは他の諸国に比べ著しく限られたものであることが指摘されており、この領域への支援をどのように拡充するかが問われている。また若者にとっては、労働は彼または彼女が社会に参加し創造的、主体的に新たな社会を構築する一員になるための、重要な手掛かりである。短期の派遣労働は、若者に自らが何をもって社会に位置づくのかという、アイデンティティの構築を困難にする。今日の若者の就労をめぐる問題は、実は優れて教育問題であることが忘れられてはならない。今日の労働・職業をめぐる問題の解決には、教育的なアプローチが不可欠になっているのである。

さらに、近年の国際的な成人教育研究の動向においては、労働・職業領域を研究領域に位置づけた研究をするのが一般的であり、そこから成人の学習理論の目覚ましい展開が生まれている。社会教育研究が労働・職業領域での成人の学習を除外してしまうことは、こうした研究の重要なコーパスを自ら放棄することに等しい。事実、欧米の成人教育研究では、労働や職業の場を舞台にして新しい成人教育理論の構築が進んでいる。その中では、成人の学習理論、成人の自立や自律、ものづくりに関わる教育訓練の意味、成人教育における支援を旨とする伴走者としての職員の役割理解など、教育学の新しい展開がみられる。

あえて言えば、社会・文化的な領域に限定されてきた日本の社会教育研究は世界的には異例である。本研究は上記の事情を背景に、日本社会教育学会による取組と連動して、労働・職業関連の生涯学習研究に取組もうとするものである。本研究は、日本社会教育学会の活動と連動することによって、同学会が保有する国際的な成人教育関連の研究成果を、研究の展開過程に反映させることができる。そのことが、ひいては日本の社会教育および生涯学習研究が発展する条件をつくることが期待される。

２．研究の目的

研究期間内に労働・職業に関する生涯学習コーパスの構築を進めながら、日本社会教育学会の会員が共同で取り組むべき研究上のイッシューの明確化に取組む。

ｉ　グローバリゼーション下の経済構造の変化が労働･職業関連学習に及ぼす影響。

ⅱ　労働者教育の組織および体制に関する問題。

ⅲ　労働・職業を軸とした教育論の再構成。

ⅳ　外国人労働者、ジェンダー論、高齢者などの社会的排除問題との関連。

ⅴ　労働・職業関連学習の成人学習方法論の探求。

３．研究の方法

イッシューの明確化に向けて、労働と職業関連の生涯学習に関わる基本的な用語集を構築する。これを基に、基本的な課題を掘り下げ、学会の共同研究に連動させ、さらに広げる。

４．研究成果

（１）研究活動として取り組んだテーマは、「労働・職業に関わる生涯学習の今日的課題」「労働者教育のこれまでとこれから」「労使関係からみた労働者の力量形成」「労働に関わる教育・学習問題」「労働・職業・キャリア概念をめぐる問題」「ホームレスの職歴家族関係に見る排除」「1950 年代の労働組合とサークル活動」「企業内教育研究の到達点」「労働と教育・学習に関わる社会教育研究の問題構成」「学習の場としての労働組合・サークル」「労働の場のエンパワメント研究の課題」「社会教育研究における労働・職業の位置と研究的パースペクティブ」「過労死問題に関する社会運動の展開」「労働の場のエンパワメントという課題について」「ワーキング・ウイメンズ・ネットワーキング」「障害者の就労支援」「労働とジェンダー構造と」「若者の労働への参入」「ケア労働」「社会教育研究における労働」「成人性から見る労働」「東京都の労働運動の現状」「女性労働の課題」「社会的企業と社会的包摂」「アメリカの労働運動と労働教育」「東京建築カレッジ見学」「外国人労働者の学習」「バングラデシュにおけるマイクロファイナンスとコミュニティ」「NPO 法人 POSSE の相談活動」「福井大学教職員大学院の試み」「企業内養成制度と労働過程」「女性のキャリア形成」「労働の場における学習」などである。

以上の研究活動を通して、近年の経済構造の変化の中で非正規労働に従事する若者を中心として、労働と職業に関する生涯学習として論議すべき新たな課題が生起していることが確認された。

（２）これを社会教育研究としてさらに深め、かつ広げるものとして、日本社会教育学会のプロジェクト研究として進められてきた本「労働の場におけるエンパワメント」研究を、2013 年度秋に刊行予定の学会の年報テーマとすることが決定され、現在その編集が進んでいる。

内容は、「第１部　労働と教育のパラダイム転換」においては、「日本型雇用システムにおける教育と労働」「労働の場の学習研究の視覚」「障害者雇用の展開とその問題」「労働・コミュニティからの排除と若者支援」「1950 年代における教育と労働問題」が取り上げられ、「第２部　＜働く場＞の学習」では「保全工の学習と技能形成」「協働労働実践の今日的到達点」「労働の場における排除と女性」「若年ホームレスの労働からの排除」「『田舎』の青年の労働と学習」「結婚移民女性と就労支援」「企業における新しい学習ツールとしての身体」が取り上げられる。また、「第３部働くこととエンパワメントの展望」では、「教養教育を通じたエンプロイヤビリティの獲得」「職場のセクシャルハラスメント防止策と学習」「労働組合における学習論の再検討」「新しい労働運動における

担い手の形成」「若者自身の NO に必要なもの」「就労と学習」を収録する予定である。

（３）労働・職業に関する生涯学習関連の基本イッシューを明らかにするための方法とした、この問題に関する用語集（コーパス）の一部を、『社会教育・生涯学習辞典』（2012　朝倉書店）での項目および執筆者の選定に活かすことができた。この辞典は、直接には本研究と関係をもつものではないが、末本・朴木が辞典の編集委員であることから、本研究の意図を編集過程から編集活動に反映させ、辞典に収録する用語の選定の重要な柱に、「労働・職業に関する生涯学習」を位置づけてきた。その結果、この辞典は職業・労働に関する生涯学習関連の項目を多数含み、他に例を見ない編集になっている。本研究のメンバーは部分的にだが、関連項目の執筆者に加わっている。しかし社会教育、生涯学習研究者でこの領域に関わる研究者が不足しているため、この辞典では経営学や労働論などの関連領域の執筆者に協力を求めざるを得なかった。その結果、教育的な内容の記述としては課題を残す項目が含まれることになったが、本研究は将来、この不足を補うことになることが期待される。この辞典の改定や新しい辞典の編集においては、この研究の成果を生かすことができるものと考える。

（４）2012 年 11 月に、モロッコのマラケシュで開かれた「第 3 回国際生涯学習会議」に末本が参加し、労働・職業に関する生涯学習の国際的な議論に加わり、日本の事情を紹介したほか、情報交換を行うことができた。この会議は、2009 年にブラジルのベレンで開かれた国際成人教育会議（ICAE）のベレン行動枠組みの提案を受け、その政策ベースへの移行を目的にして作られたユネスコ関連の NGO によって組織された。本研究代表の末本は、この会議の専門家委員会のメンバーであり、2010 年に上海で開かれた第 2 回目の国際会議では、日本の取組について報告をしている。今回の会議はその 3 回目にあたり、マラケシュで 3 日にわたって開かれた。この会議では、事務局をもつフランスのイニシアチブで、労働・職業に関する生涯学習の各国の現状と課題が報告された。中にはフランスの中世からの労働・職業に関わる教育訓練の団体である、コンパニオナージュ（同職組合・ドボワール派）の事務局長の報告があり、日本とフランスの職業・労働に関わる教育訓練の意味の相違についての指摘があり、有益な示唆を受けた。末本は各分科会での議論に参加したほか、総括部分で東日本大震災後の日本における生涯学習の課題について発言した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1　件）

(1) <u>朴木佳緒留</u>　気がついたらここに居た　日本の科学者　第 48 巻　2013,　54-57

〔図書〕（計 1 件）

社会教育・生涯学習辞典編集委員会　社会教育・生涯学習辞典　朝倉書店　2012　674 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

末本　誠（SUEMOTO MAKOTO）
神戸大学人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：80162840

(2)研究分担者

朴木　佳緒留（HONOKI KAORU）
神戸大学人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：60106010

平川　景子（HIRAKAWA KEIKO）
明治大学文学部・教授
研究者番号：40318663

浅野　かおる（ASANO KAORU）
福島大学行政政策学類・教授
研究者番号：10282253

上原慎一（UEHARA SHINICHI）
北海道大学教育学研究科・准教授
研究者番号：10269136

廣森直子（HIROMORI NAOKO）
青森県立保健大学健康科学部・助教
研究者番号：40315536

(3)連携研究者

該当なし